



第19回
東西四大学OB
合唱連盟演奏会

2013年

6月23日(日)

東京芸術劇場 コンサートホール

開演 13:30



Doshisha College Song

One purpose, Doshisha, thy name
 Doth signify one lofty aim;
 To train thy sons in heart and hand
 To live for God and Native Land.
 Dear Alma Mater, sons of thine
 Shall be as branches to the vine;
 Tho' through the world we wander far and wide,
 Still in our hearts thy precepts shall abide!

Still broader than our land of birth,
 We've learned the oneness of our Earth;
 Still higher than self-love we find
 The love and service of mankind.
 Dear Alma Mater, sons of thine
 Would strive to live the life divine;
 That we may with increasing years have stood
 For God, for Doshisha, and Brotherhood!



A Song for Kwansei

That we may both receive and give,
 May live to learn and learn to live,
 Kwansei, we throng;
 To you we throng, not first nor last,
 Rejoicing in your fruitful past,
 Through seasons clear or overcast
 Still true and strong.

For us the present time is grace,
 With thankful hearts we take our place,
 Kwansei, our own;
 And, each and all, will count these hours
 Beneath your trees, beneath your towers,
 One long succession of kind hours.
 The sweetest known.



慶應義塾塾歌

見よ
 風に鳴るわが旗を
 新潮寄するあかつきの
 風の中にはためきて
 文化の護りたからかに
 貫き樹てし誇りあり
 樹てんかな この旗を
 強く雄々しく樹てんかな
 あゝわが義塾
 慶應 慶應 慶應

起て
 日はめぐる丘の上
 春秋ふかめ揺ぎなき
 学びの城を承け嗣ぎて
 執る筆かざすわが額の
 徽章の誉世に布かむ
 生きんかな この丘に
 高く新たに生きんかな
 あゝわが義塾
 慶應 慶應 慶應

往け
 涯なきこの道を
 究めていよゝ遠くとも
 わが手に執れる炬火は
 叡智の光あきらかに
 ゆくて正しく照らすなり
 往かんかな この道を
 遠く遥けく往かんかな
 あゝわが義塾
 慶應 慶應 慶應



早稲田大学校歌

都の西北 早稲田の森に
 聳ゆる薨は われらが母校
 われらが日ごろの 抱負を知るや
 進取の精神 学の独立
 現世を忘れぬ 久遠の理想
 かがやくわれらが 行手を見よや
 わせだ わせだ わせだ わせだ
 わせだ わせだ わせだ

あれ見よかしこの 常磐の森は
 心のふるさと われらが母校
 集り散じて 人は変れど
 仰ぐは同じき 理想の光
 いざ声そろへて 空もとどろに
 われらが母校の 名をばたたへん
 わせだ わせだ わせだ わせだ
 わせだ わせだ わせだ



ご挨拶

本日はご多用の中、私ども東西四大学OB合唱連盟演奏会にご来場賜り、誠にありがとうございます。

1977年に第1回演奏会を東京・九段会館で開いて以来、2年ごとに東京と関西で交互に演奏会を開催してまいり今年で36年目、第19回演奏会を迎えました。

本日までこうして演奏会を続けることができましたのは、ひとえに客席の皆様の温かいご声援の賜物でございます、深く感謝申し上げます。また、この間多くの先生方ともお付き合いさせていただきましたことも大きな財産です。

100年を超える歴史をもつ母校合唱団のOBが集うわけですが、本日は80歳を超える大先輩から直近の卒業生まで、まさに老いも若きも400人以上のメンバーが一堂に会しました。これからもまだまだ仲間を増やし、四団体が競い合いつつも楽しく歌い続けたいと思っております。今後とも私どもをご支援賜りたくよろしくお願ひ申し上げます。

最後になりましたが、皆様のますますのご発展とご健康を心から祈念いたします。

2013年6月23日
東西四大学OB合唱連盟



同志社大学学長

村田晃嗣



慶應義塾長

清家 篤



第19回東西四大学OB合唱連盟演奏会
が、盛大に開催されますことを心から
お慶び申し上げます。

クローバークラブは1954年(昭和29年)
の創部で、本年度で59年目を迎えられま
す。その活動の一環として、東西四大学
合唱団OBの方々による相互の協力と
並々ならぬ努力によって36年の長きに
わたって演奏会を継続してこられました。
皆様の情熱あふれる活動に対し、
同志社大学学長として、深く敬意を表
する次第です。

本日は、日頃の成果を存分に発揮し、
素晴らしい歌声を披露していただき
たいと思います。そして、聴衆の皆様
に夢や感動をお届けすることができ
れば、これに勝る喜びはございません。
最後になりましたが、お忙しい中ご来
場いただきました観客の皆様をはじめ、
演奏会の開催にあたってご尽力く
ださいました関係者の方々に心からお
礼申し上げますとともに、本日の演奏
会の成功と貴連盟の益々のご発展をお
祈りいたします。

東西4つの私立大学の男声合唱団OBが、
それぞれの歌声を競い合ってきた「東西
四大学OB合唱連盟演奏会」が、本日こ
こに開催されます。今回で第19回を数
える本演奏会は、2年に1度、東西で交
互に開催してきました。本日ご来場く
ださった皆様をはじめ、長年演奏会を
支えてこられた皆様に敬意を表します。

さて昨年5月24日、慶應義塾ワグネル・
ソサイエティー男声合唱団の専任指揮
者を52年にわたり務められた畑中良
輔先生がご急逝されました。常に
団員を成長へと導き、タクトを振り
続けてこられた畑中先生のご恩に深
謝すると共に、心からご冥福をお祈
り申し上げます。

以来、慶應義塾ワグネル・ソサイエ
ティー男声合唱団OBは現役団員共々、
畑中先生から引き継がれた佐藤正浩
先生による新体制のもとで新たな音
作りのため練習に励んできました。そ
の練習の成果をこの演奏会で発揮し
ます。新たな一歩を踏み出した慶應
義塾ワグネル・ソサイエティーOB合
唱団のハーモニーに耳を傾けていた
だきたく存じます。

ご来場の皆様、どうか心ゆくまでお
楽しみください。本日この会場にお
られるすべての皆様の今後のご健康
とご多幸を心よりお祈り申し上げます
とともに、今後の4大学の結びつき
がますます強固なものとなります
ことを願っております。



関西学院大学学長

井上琢智



第19回東西四大学OB合唱連盟演奏会へお集まりいただいた皆さんに、関西学院大学を代表して、心から御礼を申し上げます。

関西学院グリークラブは、関西学院創立10年後にあたる1899年、当時キャンパスがあった神戸原田の森(現在の王子公園辺り)に日本で初めての男声合唱団として産声をあげました。最初の男声4部合唱は、新築間もない本館講堂(チャペル)での英語の賛美歌でした。初期の部員には、内村鑑三の弟の順也、後に関西学院第5代院長となった神崎驥一や山田耕作(後に耕筈と改名)がいました。

「講堂でオルガンやピアノをひいた。私の内にはぐくまれつつあった創作への種は、その頃芽生え始めていた。ある午後、英詩集を手にして…耽読していた。…ふと唇に、ある旋律が浮いた。…それは14節ほどの My True Heart という曲となった。その旋律によって低音を書き、次中音を書き、中音を書き入れて混声の合唱とした。これが私の生んだ最初の曲となった。16歳の秋、中学校2年の時である。」こうして作曲家・山田耕作が誕生しました。その耕筈が関西学院の校歌「空の翼」を北原白秋作詞によって作曲したのは、1936年のことでした。

耕筈を育てた関西学院グリークラブのOB達の和音をぜひお楽しみ下さい。



早稲田大学総長

鎌田 薫



第19回東西四大学OB合唱連盟演奏会が開催されますことを、早稲田大学を代表して心からお慶び申し上げます。

早稲田大学では、創立150周年にあたる2022年をめざして「Waseda Vision 150」という目標を掲げ、世界に貢献し続ける大学たるべく、不断の改革に取り組んでいます。在学生、教職員のみならず、校友(卒業生等)の奮闘にも期待を寄せており、中でも活発な活動を続け、力強い歌声を聴かせてくれる稲門グリークラブは、その代表的存在と申せましょう。

さて今年、現役の早稲田大学グリークラブが40年余りにわたってお世話になっている小林研一郎先生と、OB初の共演ステージが実現いたしました。国内外のプロのオーケストラを指揮される先生のもと、稲門グリークラブがどれほどの熱い合唱を聴かせてくれるか、大いに楽しみにしています。

伝統と実績のある東西四大学OB合唱団により、隔年で開催されるこの演奏会が、今後も末長く、発展を重ねていくことを祈念しています。

ご来場の皆様には、学生とはひと味違う大人のコーラスの響きを、心ゆくまでお楽しみいただければと思います。併せて、本日の演奏会開催のためにご尽力いただきました関係各位に心から感謝いたしまして、ご挨拶といたします。

Program

エール交歓

I. クローバークラブ ▼

男声合唱のための「おらしよ」 千原英喜 作曲

カクレキリシタン3つの歌

指揮 小林香太

- 1 I
- 2 II
- 3 III

II. 慶應義塾ワグネル・ソサイエティーOB合唱団 ✕

「チャイコフスキー歌曲集」 福永陽一郎 編曲

指揮 佐藤正浩 ピアノ 石山英明

- 1 何故？
- 2 さわがしい舞踏会で
- 3 語るな、我が友よ
- 4 憧れを知る者のみが
- 5 ドン・ファンのセレナーデ

休憩 *intermission*

III. 新月会

Old American Songs Aaron Copland 編曲

指揮 辻 伸高 ピアノ 細見真理子

- 1 CHING-A-RING CHAW
- 2 SIMPLE GIFTS
- 3 AT THE RIVER
- 4 I BOUGHT ME A CAT
- 5 LONG TIME AGO
- 6 ZION' S WALLS

IV. 稲門グリークラブ

男声合唱組曲「水のいのち」 高田三郎 作曲 高野喜久雄 作詩

指揮 小林研一郎 ピアノ 大室晃子

- 1 雨
- 2 水たまり
- 3 川
- 4 海
- 5 海よ

V. 合同演奏

斎太郎節 宮城県民謡 竹花秀昭 編曲
指揮 山田真也 (新月会)

ソーラン節 北海道民謡 清水 脩 作曲
指揮 須田和宏 (ワグネル)

五木の子守唄 熊本地方民謡 福永陽一郎 編曲
指揮 小林香太 (クローバー)

最上川舟唄 山形県民謡 清水 脩 作曲
指揮 佐藤 拓 (稲門グリー)



I. クローバークラブ 男声合唱のための「おらしょ」

曲目紹介

江戸時代、幕府によってキリスト教は弾圧され、信徒の多くは棄教もしくは改宗させられたが、その一部は潜伏しあるいは仏教徒を装いながら、密かに神への祈り（おらしょ）を唱え続けた。その昔、外国人宣教師による伝道活動の中で伝えられたグレゴリオ聖歌の一部もまた、信者によって歌おらしょとして歌い継がれていくことになる。1873年、キリシタン禁制の高札廃止により信教の自由が与えられるまでの200年余りの間、代々受け継がれてきたカクレキリシタン信仰は、その長い年月の中でカトリック本来の思想、字義的意味をおおよそ失ってしまったが、カクレであるがゆえに独自に変容、土着化し、今なお日本における民族信仰の一つとして存在している。

I
グレゴリオ聖歌の旋律によるアレレヤ唱で静かに始まるメロディは、ごく自然な形で時間と空間を変え、聴く者を現代とは異なる世界へと誘う。続いて現れる長崎・平戸島に伝わるハイヤ節は、元々酒盛りの歌であり、あるいは男女の恋の歌として賑々しく唄われていたとされるが、ここでは信仰を守るために故郷を棄てなければならなかったカクレキリシタンの望郷の歌として切々と唄われる。海を見つめ、天を仰ぎ、祈りを、そして賛美を、その一切を声に出して証しすることを許されなかった彼らの思いが込められた旋律は、あまりに切なく美しい。

II
カクレキリシタン信仰の源流である祈り"Oratio (オラツィオ)"は、元の言語であるラテン語、ポルトガル語などの原型を留めない形で独自の「おらしょ」となった。「きりやれんず」=Kyrie eleison (主よ、憐みたまえ)、そして「ぐるりよおざ どみな」=O gloriosa Domina

(栄えある聖母よ)、「みぜれめんでお」=Miserere mei, Deus (神よ、大いなる慈しみ)、「あめまりあがらしゃめんな」=Ave Maria, gratia plena (幸いあれマリア、恵み多き者)といった歌は、今も生月島にある山田集落、壱部集落のおらしょとして祈り継がれているが、原曲となった聖歌はすでにヨーロッパで歌われなくなったものもある。曲の後半で歌われるのはおらしょによるCredo (クレド)、すなわち信仰告白であり現代のキリスト者が祈るものと同じである。途切れることなく重なり合うようにして歌い上げられ、Oratioとおらしょが織り成す世界は実にドラマチックで神秘的である。

III
オロロンとは有明海沿岸地方の子守唄にあるあやし言葉で始まるこの歌は、平戸島・獅子浜に伝わる泣き唄、そして生月島のおらしょ「だんじく様のお歌」「さんじゅあん様のお歌」へと続く。共に弾圧により処刑されたキリシタン達を思い、讃える歌である。

パライズノ寺ニゾ 参ロヤナア
広イナア狭イワ ワガ胸ニ アルゾヤナア
今ワナ 涙ノ谷ナルヤナア
先ワナ 助カル道デ アルゾヤナア
聖書において「涙の谷」と呼ばれる今ある世を生きるカクレキリシタンの苦悩、目指すべき天国 (Paradiso) が広い狭いかは己の信仰心の強さで決まり、救いの道信じ歩もうとする彼らの思いは、死してもなおその信仰が祝福されることを確信するものとして力強く歌われていく。曲の終わりに歌われる獅子の泣き唄の一節は、壮絶かつ残酷な処刑により多くの信者が殉教した獅子浜での悲劇を徹塵も感じさせない、清らかな風景を歌い、冒頭のアレレヤ合唱が再びモチーフと現れ静かに終焉する。



指揮 小林香太

1976年、奈良県生まれ。幼少より教会音楽を通じて音楽的素養を身につける。大学在学中は合唱指揮者 本山秀毅氏の指導のもとで同志社グリークラブ第66代学生指揮者として活躍し、社会人となってからも柔軟な発想と音楽で生まれる絆を大切に、精力的に指揮・歌唱活動を続けている。東京クローバークラブでは2002年より指揮者を務め、これまで東京クローバークラブ50周年記念演奏会・東西四大学08合唱演奏会・ローマ教皇来崎25周年記念演奏会等で指揮した。MAJORA CANAMUS (メサイア)、Ensemble SINGS等を主宰、スウェーデンの作曲家S. ドプロゴス氏と2度に亘り共演した他、各地の教会でチャペルコンサートを開きソロ演奏を行う等、活躍の幅を広げている。声楽を有本明生氏に師事。なにわコラリアーズメンバー。住友電気工業株式会社勤務。

決して忘れることのできない場面がある。100人の歌手、1,000人の聴衆を前に「らおだて」「なじょう」「ぐるりよーざ」を唱える男性達の声がカトリック大聖堂に静かに響き渡る。長崎・生月島老部集落に伝わる歌おらしょ、その声はカクレキリシタン信仰者の祈りそのものであった。2006年10月、浦上天主堂で開催されたローマ教皇来崎25周年記念コンサートで、クローバークラブは立教大学グリークラブOB男声合唱団と共に、大島ミチル作曲《御誦(おらしょ)》を演奏した。演奏前に唱えられた歌おらしょは言葉が磨滅し歌とも節とも聞き取り難い部分があったが、彼らが守る信仰の神髄を肌で感じ、私たちは特別な感動と喜びのうちに演奏することができたのだ。秘匿を旨とする歌おらしょが面前で披露されるのはまさに異例であり、収録映像は貴重な史料として地元で保存されたと聞いている。私たちは合唱を通して心にある言葉を声に出して歌い上げることの素晴らしさを知っている。他方、声を上げることを許されず途方もない沈黙のうちに密かに存在した救いへの祈りの歴史を噛みしめる。作曲家はこの《おらしょ》を「自由なファンタジーによって創り上げられた幻想的バラードである」と語り、必ずしも宗教作品として位置づけていないが、同志社には代々歌い継いできた祈りのハーモニーがある。カクレキリシタンの抱いた夢や希望、情熱、厳しい弾圧に対する苦しみ、悲しみ、そして幸福を願い続けた思いと重ね合わせ、今を生きる私たちにおける真の平和の賛歌として壮大に歌い上げたい。



クローバークラブ

1954年(昭和29年)に開かれた同志社グリークラブ創部50周年記念演奏会にグリークラブOBが大勢賛助出演したことからOB合唱団が設立され「クローバークラブ」として発足しました。

今年で59年目を、そして来年は還暦を迎えることになりました。

又、卒業母体となる同志社グリークラブは来年創部110周年を迎えます。節目となる来年に向けて、今年2月には大阪で、日頃は別々に活動している、各クローバークラブ、同志社グリークラブOBシンガーズ(DOBS)、またOB合唱団には属してはいないOB等が一堂に会して、会員相互の親睦強化と現役に対する支援を目的に「同志社グリークラブOBコンサート」を開催致しました。

本日は、「クローバークラブ」にとっては2度目の「おらしょ」を演奏致します。2005年7月・第15回東西四大学OB合唱連盟演奏会(於:東京芸術劇場大ホール)でピアノ・バーカッション・アルト独唱を加えた、大島ミチル作曲男声合唱組曲「御誦」を演奏しましたが、本日は千原英喜作曲男声合唱のための「おらしょ カクレキリシタン3つの歌」を演奏します。前回とは違った「おらしょ」をお楽しみください。

大阪クローバークラブ 今後の予定

- 13. 8.24(土) 松本寛二氏没後20年記念会/日本基督教団岡本教会
- 11.10(日) 同志社大学ホームカミングデー

同志社グリークラブOBシンガーズ 今後の予定

- 13. 9. 1(日) 「同志社女子大学音楽学会《頌啓会》中瀬古和先生没後40年記念コンサート」 賛助出演/大阪いずみホール
- 10. 6(日) ラーマン大学合唱団ジョイントコンサート/大阪島之内教会

同志社グリークラブ 今後の予定

- 13. 10.13(日)・14(月祝) 第68回関西合唱コンクール/いたみホール
- 10.19(土) ソルトレークシティ合唱団ジョイントコンサート/同志社大学寒梅館
- 12. 1(日) 第109回定期演奏会/京都コンサートホール
- 12.24(火) 第49回全同志社メサイヤ演奏会/京都コンサートホール



II. 慶應義塾ワグネル・ソサィエティーOB合唱団

「チャイコフスキー歌曲集」

曲目紹介

I. 何故?

歌詞はハイネの詩を露訳したもの。失恋の痛みを目に映るあらゆる物に投げかける「何故?」(ロシア語でアッチェヴォー)の問いをチャイコフスキーは内省的な優美な旋律で表現している。その旋律を最初は単純な右手だけの三連符で導き出し、「問い」を重ねる毎に色彩豊かに厚みを加え、その思いは頂点で爆発し、恐らく詩人が一番口にしたくない「お前が私を捨てたのではないか」という言葉が吐き捨てるように歌われる。しかし、曲の最後は穏やかな二長調の主和音で結びとなり、激しい怒りが浄化されたことを表している。

II. さわがしい舞踏会で

ロシアのアルクセイ・トルストイ(「戦争と平和」の文豪レフ・トルストイとは別人)の詩による。この曲は一言でいえば好きなのに「好き」と言えない男の歌であり、この舞踏会はまさに映画「戦争と平和」(旧ソ連制作・米国制作あり)に出てくる舞踏会のシーンを彷彿とさせる。紳士・淑女が踊る人の波の間から時折見えるその美しい人はヒロインであるナターシャそのものである。ワルツのリズムを借りながら、美しいベシミズムに彩られた佳曲であり、愛好者も多い。

III. 語るな、我が友よ

歌詞はM・ハルトマンの詩を露訳したもの。伴奏はチャイコフスキーお得意の三連符、同型のメロディラインを繰り返して徐々に高めていく手法で、墓石の前で亡くなった友(男性)に対する「語るな、わが友よ。君に明るい幸せな日々があった事を、そしてその幸せが失われてしまった事を」という濃厚な絶望に満ちた悲嘆の言葉が胸を打つ。

IV. 憧れを知る者のみが

文豪ゲーテの詩を露訳したもの。元々はゲーテのヴィルヘルム・マイスターの中でミニョンに歌われる歌の一つで、ミニョンの歌として有名なものは他にも「君よ知るや南の国」等がある。原語では女性の歌のため男性には歌えないが、ロシア語に訳されたものは男女の区別がないため、男女を問わずよく歌われている。七度と六度の下降跳躍を持つメロディラインが、切なく物思わしげな胸の内を表すのに最適であり、曲の頂点に向けてその昂る感情を高音に叩きつけ爆発させる手法はチャイコフスキーお得意のものである。

V. ドン・ファンのセレナーデ

「騒がしい舞踏会で」と同じロシアのアルクセイ・トルストイの詩による。ドン・ファンとは17世紀スペインの伝説上の色事師でプレイボーイの代名詞として使われ、イタリアではドン・ジョバンニと呼ばれる。この作品は、実は昔から歌曲としてはあまり世評は芳しくないが、オペラ・アリア風の大仰さがかえって通俗的人気を呼び、カルーソーはじめオペラ歌手のレパートリーによく取り上げられる。曲の終盤で原曲では歌手が自分の声の素晴らしさを示すため高い「ファの#」を張り上げるが、合唱編曲ではさらに三度高い「ラの#」が要求される。

なお、本日演奏する福永陽一郎先生編曲の「チャイコフスキー歌曲集」は昭和49年5月の第23回東京六大学合唱連盟定期演奏会において畑中良輔先生指揮で当合唱団により演奏されたもので、編曲もこのために新しく書き下ろされたものである。



指揮 佐藤正浩

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。ジュリアード音楽院ピアノ伴奏科修士過程修了。1993年、サンフランシスコ・オペラのオーティションに合格、専属ピアニストとして活躍を始める。1995年、指揮者ケント・ナガノの招きでフランス・リヨン国立歌劇場の首席コレペティートルとなる。また、ジョン・ミョンファン、ゲルギエフ等のアシスタントとしてパリ・シャトレ座、ラヴェンナ音楽祭(イタリア)、ウィーン芸術週間などで活躍。指揮をベーター・エトヴォシュ、ディエゴ・マゾンに師事する。1999年、イギリス・ダーティントン音楽祭において「イドメネオ」を指揮しデビュー。新国立劇場で「オルフェオとエウリディーチェ」を指揮し日本デビューを果たし脚光を浴びる。近年では日生劇場「泣いた赤鬼」「カルメン」、新国立劇場「トスカ」、藤原歌劇団/文化庁公演の「愛の妙薬」、また東京オペラ・プロデュース公演「放蕩者のなりゆき」(ストラヴィンスキー)を指揮し、「音楽現代」紙上で「私が注目する指揮者たち」の一人に挙げられる。今後はひろしまオペラ・ルネッサンス「イル・カンピエッロ」、三善晃「遠い帆」(仙台)、東京室内歌劇場「利口な北狐の物語」、オペラ「白虎」(再演)等が予定されている。これまでに読売日本交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢、大阪センチュリー交響楽団等を指揮。また自身のオーケストラ、Orchestra "Les Champs-Lyriques" を設立し活動する。愛知県立芸術大学非常勤講師、慶應義塾ワグネル・ソサィエティー男声合唱団正指揮者。



ピアノ 石山英明

神奈川県立弥栄東高校音楽コースを経て、国立ベルリン芸術大学音楽科(当時西ドイツ)に学ぶ。在学中よりソロ・リサイタルの他オーケストラと共演するなど、演奏活動を始める。また、世界的に著名な指導者であった故ジョルジュ・シエベック氏のマスタークラスや、ベルリン・フィルの首席奏者であったトーマス・ブランデイス氏、ヴォルフガング・ベッチャー氏らの室内楽のレッスンを受講する。帰国後も各種演奏会に出演し、近年ではオペラ、歌曲の伴奏者として内外の歌手との共演も数多い。イタリア・ヴィオッティ国際コンクールにおいてディプロマ取得。内藤忠勝、荒瀬一、クラウス・ヘルヴィッヒの各氏に師事。現在、桜花学園大学准教授、愛知県立芸術大学非常勤講師。

チャイコフスキーの歌曲について

ご存知チャイコフスキー(1840～1893)は帝政ロシアの作曲家であり、生涯に百余曲の歌曲を作曲しているが交響曲やバレエ曲などの作品に比して音楽評論家や研究者には必ずしも評価が高いとは言い難い。しかし、彼は以前は19世紀ロシアの西欧派に分類されていたが、近年はむしろロシア的だったと指摘する研究が増えており、その彼の「ロシア的」な魅力が最も顕著に現れているのが、歌曲のジャンルである。そしてそのメロディが深い憂愁、甘美さ、烈しさにみなぎっているのは、ロシアの森、大地、厳寒、目の覚めるような春と夏、熱いロシア人の血潮、ロシアそのものに根ざしているからに他ならない。

その特徴は憂愁の美しさ、ややブラームス風のゴツゴツした和声的進行の入り混じった構想の魅力、規模の大きさと、的確な幅広い声域にあり、「切ない恋」の歌ではあふれる抒情性を美しい旋律に乗せて恋人たちの心情を歌い上げている。

一方、その魅力あるチャイコフスキーの歌曲にトライする者にとって大きな「壁」がロシア語である。PがR、BがV、HがN……と発音し、おまけにアルファベットにない記号の様な妙な文字等々に泣かされるが、とは言え魅力あるメロディと伴奏、そしてロシア語ならではの語感無くしてチャイコフスキーの歌曲は成り立たない。



慶應義塾ワグネル・ソサイエティーOB合唱団

慶應義塾ワグネル・ソサイエティーは、ドイツの作曲家R. ワグナーを敬慕する塾生が集って1901年(明治34年)に発足しました。ワグネルは創立後、オーケストラに、合唱に幅広く活発な活動をし、戦前には、日本のクラシック音楽界は「上野の音楽学校(官)と慶應のワグネル(民)」の両輪によって支えられたと言われています。

発足以来、男声合唱団とオーケストラが一緒になって活動をしていましたが、戦後女声合唱団が加わり、現在では、オーケストラ・男声合唱団・女声合唱団の3団体それぞれが独立した活動をしています。2011年(平成23年)にはワグネル創立110年ということで、3団体の現役・OB・OGが一堂に集い、特別演奏会を開催いたしました。

OB合唱団は、男声合唱団の卒団生有志により、1953年(昭和28年)に結成され、以来今日まで紆余曲折はありましたが継続的に絶えることなく活動を続けています。OBの間には、ポピュラーコーラスの先駆者であるダークダックス、またプロのオペラ歌手として堀内康雄、大久保光哉、谷口伸、そしてジャズコーラスユニット・ジャミンゼブの仲光甫などがいます。現在1200名を超える男声合唱団OBのうち、常時60名以上が「OB合唱団」に参加しており、週1回定期的に練習を行っています。また、関西在住のOBも定期的に大阪にて練習を重ね、OB四連のほかに定期演奏会にも一緒にステージに臨んでいます。2003年(平成15年)11月には東京芸術劇場にてOB合唱団創立50周年記念定期演奏会を開催。本年9月23日には第5回ガラコンサート(ステージ上の同窓会)を開催します。このコンサートでは、昨年ご逝去された畑中良輔先生を偲び、OB全学年が4学年毎にグループを組み、集い、畑中先生ゆかりの曲を歌いあいます。

本日演奏するチャイコフスキー歌曲集の第4曲「憧れを知る者のみが」は、畑中先生がOB合唱団で最後に指揮された曲であり、そして本日の演目については、畑中先生が「次回のOBの演奏会ではこの曲集をやろう」とおっしゃられていました。が、その後体調を崩され実現できなかった演目です。

本日は、現役ワグネルの正指揮者の佐藤正浩先生をお迎えして、このゆかりあるチャイコフスキーを歌い上げます。

慶應義塾ワグネルソサイエティー OB及び現役 今後の予定

- 13.9.23(月祝) 畑中良輔先生追悼ワグネル・ガラコンサート ～第5回ステージ上の同窓会～/大田区民アブリコ 大ホール
現役・OB合同演奏「華野心平の詩から」(曲:多田武彦) 指揮:佐藤正浩
- 13.11.17(日) 第138回定期演奏会 ～R.ワグナー生誕200年を記念して～/昭和女子大学人見記念講堂
現役・OB合同演奏「ローエングリン」より(男声合唱編曲版初演) 編曲・指揮:佐藤正浩



III. 新月会

Old American Songs

曲目紹介

コーブランドは20世紀アメリカを代表する作曲家のひとり。アメリカの古謡を取り入れた、親しみやすく明快な曲調でアメリカ音楽を確立した。

CHING-A-RING CHAW

兄弟たちよ、俺の話の聞け。神さまの約束の地と栄光の話だ。ミルクや蜂蜜が欲しけりゃ、一文無しでも心配ご無用。夕食は白馬の四頭立て馬車で乗りつけて、4つの豪華なコース。

夜はみんな揃ってダンスさ。ハーブやバイオリンにあわせて踊りまろう。

朝になれば、お日さまを受けて全てのものは光り輝き、聖なるいかずちが聞こえてくる。

兄弟たちよ、神さまの約束の地はやって来る。

19世紀の minstrel・song のひとつ。minstrel・song とは、米国で黒人に扮した白人が歌や踊り、寸劇などを演じた大衆演芸 (minstrel・show) の中で唄われる歌。

SIMPLE GIFTS

つつましくあることは天からの贈り物。自由であることも天からの贈り物。あなたが居るべきところにいるのも天の贈り物。私たち自身が正しい場所にいるとわかれば、そこが愛と喜びの谷になるのです。

本当のつつましが身につけば、頭を下げたり、腰を低くすることなど恥ずかしくありません。

自分自身を繰り返し変えることこそ、私たちの喜び。自らを変えよう、私たちが正しく生まれ変わるまで。

アパラチアに多く住むキリスト教ピューリタンの中でも特に禁欲的な生き方をするシェーカー派の賛美歌。

AT THE RIVER

神の御使たちが足を踏み入れられた川辺。そこでは水晶のような流れが、神の御許を流れているのです。その美しい川辺に集まりましょう。聖者たちと集まりましょう。私たちはもうすぐキラキラ光る川に着き、巡礼の旅が終わるでしょう。平安の調べに、私たちの心は幸せで打ち震えることでしょう。

新約聖書のヨハネ黙示録で預言されている「新しいエルサレム」(神の都)での再会に期待する内容といわれている。

I BOUGHT ME A CAT

私はネコを買ってきた。このネコは私のお気に入り。

あの木の下で餌をあげるとネコはいった。「ゴロゴロニャーン」

子供のことは遊びの歌。ネコに始まり、アヒル、ガチョウ、メンドリ、ブタ、ウシ、ウマといった7匹の動物の鳴き声のオンパレードで、最後にはワイフまで登場するでたらめさ。

LONG TIME AGO

もう遠い昔のことだ。柳しだれる湖畔。大波が岩にうち寄せ、飛沫(しぶき)をあげ、雪よりも輝いていた。

そこにひとりの娘が住んでいた。彼女はどんな人にも愛され、可愛がられたが、秋の枯葉とともに亡くなってしまった。

岩や木や流れる水、鳥や蜜蜂や花も、恋の魔法を彼女に教えた。僕の愛のささやきを聴きながら、彼女の青い瞳はやさしくうらんでいた。

おとぎ話のような幻想的な情景が、センチメンタルで美しい旋律にのせて描かれる。

ZION'S WALL

来たれ、父よ 母よ。来たれ、姉妹よ、兄弟よ。我らと共に歌おう、シオンを讃える歌を。

父よ、シオンの壁の中で会わんとする決意はできているか？我らは叫びつつ、シオンの壁の周りをめぐるのだ。

19世紀の信仰回復運動のために書かれたもの。シオン(Zion)はイスラエルのエルサレムの地にある丘の名前。ダビデの墓のある聖地でもある。



指揮 辻 伸高

1977年、芦屋生まれ。関西学院中学部・高等部を経て、関西学院大学経済学部卒業。在学中、グリークラブに所属し、指揮者として活躍。卒業後、OB合唱団である新月会にて合唱活動を続ける傍ら、コール・アルファを結成し、活動の幅を広げる。指揮法を故北村協一氏、広瀬康夫氏に師事、音楽を大久保沼男氏に師事。現在、新月会指揮者、コール・アルファ指揮者・音楽監督、セレスティーナ男声合唱団指揮者、女声合唱団あじさい指揮者。



ピアノ 細見真理子

兵庫県立神戸高等学校卒業、大阪教育大学専攻科ピアノ科修了。関西学院グリークラブ、淀川混声合唱団、神戸女子大学コーラス部、コール・アルファ他多くの合唱団の伴奏者として活動中。千原英喜「銀河の序」、信長貴富「くちびるに歌を(混声版)」、「讃歌」、北川昇「うたやふにゆつくりと……」、マーラー「さすらう若人の歌(大竹くみ編曲)」、横山哲昭「空を見上げて」、佐藤賢太郎「笑顔の魔法」の委嘱初演ステージや、東西四大学合唱演奏会、関西学生混声合唱連盟定期演奏会での合同ステージをはじめ、様々な大学・一般合唱団の Joint 演奏会等、多数のステージに出演。ピアノを宮本弘子、瓜原一勲の各氏に師事。現在、大阪信愛女学院短期大学非常勤講師。



新月会

新月会は、1934年（昭和9年）9月、関西学院グリークラブOB有志により結成されました。結成当時、メンバーは、卒業後も現役と共に合唱活動を続けていたOB8名、グリークラブ顧問の教授、更に昭和9年の卒業生4名を加えた総勢13名でしたが、今や会員数約千名の大所帯となりました。新月会結成80周年を迎える来年8月、長らく現役グリークラブリサイタルの会場としてお世話になり、このたび新装されたフェスティバルホール（大阪）に於いて記念演奏会を開催いたします。

OB団体としての80年に及ぶ長い歴史の中で、新月会は現役グリーの活動を絶え間なく支援すると共に、OB合唱団としても独自の演奏活動を行ってまいりました。平素は関西と関東に分かれて活動していますが、本日のように東西メンバーが一堂に会して演奏する機会を心より楽しみとしています。

さて、新月会の母体である関西学院グリークラブは、1899年（明治32年）、日本で最初の男声合唱団として誕生し、今年で創部114年となります。一時、部員数の減少に苦しみました。この傾向に歯止めをかけるべく現役・OBが一丸となって取り組んだ再生プロジェクトがここにきてようやく実を結び、今や部員数は100名を越えるまでに至りました。特にここ数年、合唱コンクールで全国優勝するなどの目覚ましい活躍はOBとしても嬉しいかぎりです。来る6月30日、すみだトリフォニーホールにて開催される「東西四大学合唱演奏会」は、関東の皆様に関学グリーの演奏をお聴きいただける数少ない機会です。この演奏会で、お一人でも多くの関東のお客様に、現役グリークラブの「今」をお聴きいただければと思います。

新月会は現役グリーの弛まぬ発展を願い、これからも全力で現役支援を間断なく続けるとともに、OB合唱団としての独自の演奏活動も、東西の新月会が力を合わせて邁進してまいります。これまでのご支援に感謝いたしますとともに、今後ともご指導、ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

新月会 今後の予定

- ・13. 9.29(日) 第44回関西学院グリークラブフェスティバル／関西学院高中部礼拝堂
- ・14. 3. 9(日) 上智大学グリークラブOB合唱団・新月会交歓演奏会／杉並公会堂
- 8. 3(日) 新月会80周年記念演奏会／フェスティバルホール（大阪）

関西学院グリークラブ 今後の予定

- ・13. 6.30(日) 第62回東西四大学合唱演奏会／すみだトリフォニー 大ホール
- 9.29(日) 第44回関西学院グリークラブフェスティバル／関西学院高中部礼拝堂
- 10.13(日) 第68回関西合唱コンクール／いたみホール
- 11.23(土) 第66回全日本合唱コンクール／千葉県文化会館 大ホール
- ・14. 2.16(日) 第82回関西学院グリークラブリサイタル／兵庫県立芸術文化センター 大ホール